

28年前のチェルノブイリ原発事故から 日本は何を学ぶべきか！

— 福島原発事故後4年間の測定結果から見てきたもの —

講師：青木一政 さん

2015年3月14日（土）

福島第一原発事故から四年になるが、福島の子ども達をはじめ、住民の健康と、命の保障がなされないままである。

独裁国家といわれるベラルーシ*と、民主国家といわれる日本と、どちらが国民に真面目に向き合っているのだろうか。

(*チェルノブイリ原発事故で被災した国の一つ)

放射性廃棄物を処理するとしながら拡散させ、汚染された「故郷」へ住民を強制的に帰還させている。いったいこの国は何をしようというのか。

本来、加害者達が支払うべき賠償金は、天文学的な額。

それを免れる仕組みが作られつつあるのかもしれない。

青木さんは、原発事故がもたらした災禍の度合いを計測し続けている人である。

その目に、日本の子どもや住民にとっての未来は、どう見えているのだろうか。

青木一政（あおき かずまさ）さん

福島老朽原発を考える会（フクロウの会）
事務局長・NPO法人市民放射能監視センター「ちくりん舎」副理事長

福島老朽原発を考える会（フクロウの会）で核廃棄物や被ばくのない社会をめざして活動を継続中。福島原発事故以降は目の前でおこっている人々の被ばくを最小化することに力を入れている。



開演：14：00（受付13：30～）

資料代：500円

連絡先：T&F 0428-23-6621
090-2313-7481（濱田）
Ko_hama@t-net.ne.jp

場所：青梅市民会館 B1F 多目的室

JR 青梅駅より徒歩5分 TEL0428-22-1131

保育：申込制

①保護者の氏名・連絡先 ②お子さんの氏名・年齢・性別
③アレルギー等の留意点を明記の上、左記のFAXまたはメールへお申込みください（締切 3/10）